



特定行為研修制度について

— 看護ケアと医療処置を同時に提供します。 —

SCU 看護師 玉垣 浩正

2015年10月より、特定行為に係る看護師の研修制度（以下、特定行為研修制度）が開始され約3年経過しています。特定行為研修制度とは、国が定めた特定の行為をある一定の研修を終了した看護師のみが行える制度で、実践的な理解力や判断力、高度な専門知識や技術が求められます。診療の補助としての特定行為を看護師が実施することにより、患者さんにタイムリーな看護と医療の介入ができ、医師にとっては業務の負担軽減の利点があります。

当院は2018年度より特定行為研修制度の指定研修機関となり、現在7人の修了者が在籍しています。活動の一例として、気管カニューレ交換を紹介します。医師の指示のもと、手順書により、身体所見・検査結果などが、医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、留置されている気管カニューレを交換します。その際、カニューレを固定している首周りのバンドを外すため、保清の機会となります。男性患者であれば、きれいに髭を剃ることもできます。処置と同時にケアを実践できることは、患者さんの生活を支える看護師ならではの行為です。チーム医療に貢献し、患者さんに安全・安心な看護を提供出来る様に努めていきたいと思います。



比留間 小倉 柴田 小林 高柳 豊島 玉垣

特定行為区分

創傷管理関連：

区別研修終了者

比留間真子、小倉健太郎、柴田こず恵、豊島麻美、玉垣浩正

創部ドレーン管理関連：

比留間真子

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：

比留間真子、小倉健太郎、高柳淳子、小林由美

血糖コントロールに係る薬剤投与関連：

豊島麻美

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：

玉垣浩正

公開講座



講座名	開催日	時間	場所	受講料	申込	問合せ先
糖尿病教室	10/5, 11/2, 12/7	13:00~15:00	山崎記念講堂	無料	不要	医療社会事業課
心臓病教室	11/27	14:00~15:00	山崎記念講堂	無料	不要	看護課外科室
がん患者・家族交流会	10/29	14:00~16:00	5階多目的室	無料	事前予約15名 予定	がん相談支援センター
肝臓病教室	10/3, 11/15	14:30~16:00	山崎記念講堂	無料	事前申し込み 電話 0422-32-3111 (逢月～金 9:30~16:00)	肝臓患相談センター
プレおばあちゃん教室	11/20	13:00~15:00	母子保健相談室	3,000円/1人	平日15:00~16:00	産婦人科外来

*詳しくは当院ホームページ「病院からのお知らせ」・「公開講座・イベント」等でご紹介しています。



日本赤十字社

武蔵野赤十字病院

No.63

2019年 秋

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌

Eye むさしの

新しい治療法の選択肢 手術支援ロボット導入

頼れる病院をめざします



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

★当院のロボット支援手術をご紹介します。★



保険適応です。

産婦人科部長 梅澤 聡

●胃がん

外科部長 井ノ口 幹人



「胃がんのロボット支援下手術を開始しました！」

ロボット支援下胃切除では自由に曲がる器具と3次元画像のカメラによって、従来の腹腔鏡手術より繊細な操作ができるようになりました。胃や腸を縫うことも腹腔鏡手術より安全に行えます。数か所に小さな穴をあけて行う手術で、傷の大きさや数は腹腔鏡手術と同様です。術後1週間くらいで退院できます。ロボット支援下胃切除はすでに保険診療となっており患者さんの経済的な負担も腹腔鏡手術や開腹手術とほとんど変わりません。

患者さんの

- (1) 傷が小さく、術後の痛みが少ない。
- (2) 術後の合併症を減らせる可能性がある。

など術後の経過を向上させることが期待できます。

●直腸がん

外科副部長 加藤 俊介



「最先端のテクノロジーを地域の皆さまに」

このたび当院に導入されたDavinci Xiは、腹腔鏡手術を支援するロボットです（もちろん人間が操作します）。ロボット手術と聞くと、「高額で手の出しづらい手術」、「実験的で一般的でない手術」といった印象があるかもしれません。当院ではロボット直腸手術は腹腔鏡手術と同じ値段です。また、日本が常に追従するアメリカでは、現在直腸がん手術の割合はロボット>開腹>腹腔鏡です。ロボット手術は最も一般的な手術であり、近い将来日本も同様になると考えています。

ロボットを用いることで、QOLと根治性が高次元で両立できると考えています。多摩地区でこの手術を提供できるのは当院のみです。最先端のテクノロジーと技術の恩恵を地域の皆様に享受していただけるよう、研鑽を重ねています。

患者さんの

- (1) 創が小さく術後の回復が早い。
- (2) がんを取り残すことが少なくなり、再発しづらい。
- (3) 神経損傷が減少し、性功能および排尿機能が温存される。

●子宮全摘



「ロボット支援手術による子宮全摘手術」

多摩地域で、初めてのロボット支援手術保険請求施設となりました！当科では、昨年12月からロボット支援手術による子宮全摘出術導入に向けて準備を始め、本年2月より手術を開始し、多摩地域で初めてのロボット支援手術子宮全摘出術保険請求施設となりました。当科は、患者さんへ低侵襲手術を提供する目的で腹腔鏡下手術を積極的に行い、現在、年間400例を超える手術を行っています。今回、ロボット支援手術を導入することにより、3次元拡大視野、手より可動域の高い操作アームにより難易度の高い手術を低侵襲で行うことが可能となりました。

患者さんの

- (1) 保険診療で最先端技術による手術を受けることが可能。
- (2) 開腹手術既往や癒着が予想される症例など、今までは開腹術式が選択されていた症例に低侵襲手術が可能。
- (3) 子宮体癌における広範囲皮膚切開（50cm超！）の縮小。

など適応となる患者さんにとって低侵襲な子宮全摘出術が可能となりました。

●前立腺がん

泌尿器科部長 田中良典



「体にやさしくより精度の高い手術を提供いたします」

2019年5月から最新鋭のロボット支援腹腔鏡下手術システムによる前立腺全摘除術（RARP）を開始しました。ロボット手術では三次元の拡大映像を見ながら可動性が向上した鉗子を用いて手術を行います。現在わが国の前立腺がん手術の約8割がこの術式で行われています。従来の開腹手術では、狭い骨盤内にある前立腺を、出血させることなく確実に摘出し、膀胱と尿道を確実に吻合することは熟練した外科医でもしばしば困難でした。実際にRARPを行ってみて、上記に加えて、術中の出血量が格段に少ないこともあり術後の回復が早いことを実感しています。

患者さんの

- (1) がんを取り残すことなく摘出できる確率が高まる。
- (2) 前立腺の先端にある尿道括約筋を十分に残し、膀胱と尿道を正確に吻合することで、術後の尿失禁が軽くなる。
- (3) 前立腺周囲の勃起神経を温存することで勃起不全が減る。
- (4) 出血量が少なく、術後の早期回復、早期社会復帰に繋がる。

など患者さんのQOL向上につながる治療成績が期待されます。